

流動化する国際情勢と中国の対外政策

早稲田大学大学院教授 青山 山 瑠 妙 あおやま るみ

- * 中国のロシア支持は不変
- * 中国は孤立していない
- * アメリカ競争法の衝撃
- * 共同富裕政策の矛盾
- * 悪化する対日感情
- * 動かない北朝鮮問題
- * 言論を封殺した習近平
- * 胡錦濤の対日改善政策
- * チベットや新疆は国内問題
- * 日本への留学応募者数が急増



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、早稲田大学の青山先生においていただきました。先生は慶應大学で博士号を取得され、慶應の藤沢キャンパスにしばらくおられた後、早稲田のほうへ移られたというお話でございました。

中国の問題についてはたいへん詳しいわけですが、ウクライナの問題が起き、世界が大きく揺れ動いて変化にさらされております。そういった中で国際情勢がどういうふうに動いていくのか、また中国の対外政策がどうなるのか、そういったことを中心に今日はお話をいただけたということでございます。

それでは青山先生、よろしく願いいたします。（拍手）

中国のロシア支持は不変

青山 こんにちは。早稲田大学の青山と申します。本日は、このような貴重な機会をいただきました。まことにありがとうございます。慶應出身で、今は早稲田に勤めております。早稲田のほうが長くなってしまいましたが、慶應との学術交流も続いております。

本日は、流動化する国際情勢と中国の外交についてお話しさせていただきます。私の専門は中国の外交です。この講演のお話をいただいたときにはウクライナの問題も上海のロックダウンの問題もなくて、この秋に向けて中国はどう動くのかということについてお話しさせていただけたらと思っておりました。しかし今となって